

## 天神島の鳥類相

橋口陽子\*

The bird fauna of Tenjin-jima Isl., Yokosuka City, Kanagawa Pref.,  
from 1999 to 2002

HASHIGUCHI Yoko \*

キーワード：鳥類相，天神島，横須賀市，三浦半島，相模湾

Key words: bird fauna, Tenjin-jima, Yokosuka City, Miura Peninsula, Sagami Bay

1999年6月から2002年3月まで天神島で観察された鳥類を記録した。その結果，28科79種の鳥類が記録された。主な留鳥はコサギ・トビ・イソシギ・ウミネコ・キジバト・ハクセキレイ・ウグイス・シジュウカラ・メジロ・スズメ・ムクドリ・ハシブトガラスの15種，夏鳥はキアシシギ・ツバメ・カワラヒワの3種，冬鳥はウミウ・ダイサギ・クロサギ・ユリカモメ・ヒヨドリ・ツグミ・アオジ・ドバトの10種であることが判った。

Bird fauna and its seasonal change were recorded from June 1999 to March 2002 at Tenjin-jima Isl. in the Miura Peninsula. The fauna consisted of 28 families and 79 species. Thirteen species besides *Egretta garzetta*, *Milvus migrans* and *Larus crassirostris* were recognized as a resident bird, *Heteroscelus brevipes*, *Hirundo rustica* and *Carduelis sinica* as a summer bird, and eight species besides *Phalacrocorax capillatus* and *Ardea alba* as a winter bird.

### はじめに

天神島の鳥類については，柴田(1974)により29科71種が報告されているが，それ以降の継続した観察記録はなく，季節ごとにどのような鳥が見られるのかもよく判っていない。著者は，天神島・笠島とその周辺海域で観察された鳥類について，1999年6月から2002年3月までの期間，継続して記録を行った。その結果，1974年以前とは異なった鳥類相が記録されたので，報告する。

### 調査地の概要

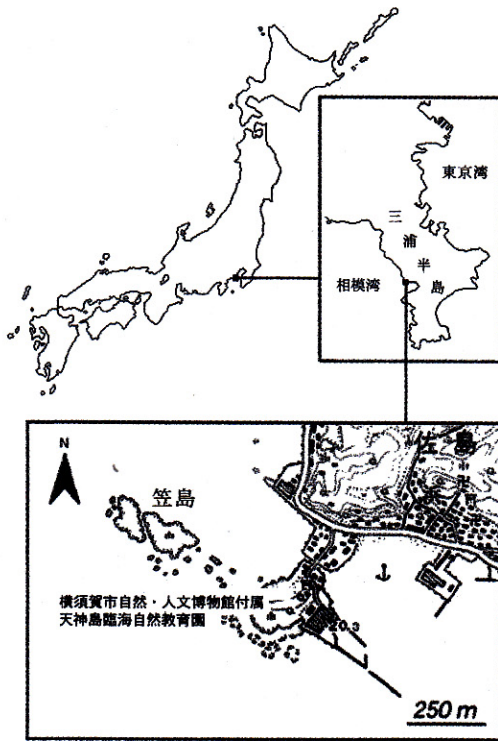
天神島臨海自然教育園は，神奈川県横須賀市佐島に位置し(35° 36' N, 139° 36' E)，相模湾に

面している(第1図)。1965年に天神島・笠島を含む周辺海域を含めた全域は，神奈川県の天然記念物として指定され，1975年には指定区域を拡大し，現在539,947.741 m<sup>2</sup>に及ぶ指定区域面積が横須賀市博物館附属天神島臨海自然教育園として管理運営されている。特に天神島の海岸植生や笠島は，立入禁止になっているために，比較的人為的攪乱の少ない環境が維持されている。

天神島は，神奈川県下では一年を通じて気温が高く，三浦半島でも数少ない無霜地帯である。島の中央には，タブノキ，モチノキ，ヤブニッケイなどの暖帯性広葉高木樹林があり，その内部や林縁部にはトベラ，イヌビワ，ツルオオバマサキ，ハマゴウ，マルバシャリンバイなどの低木層が発

\* 〒238-0032 横須賀市平作7-3-5-4 7-3-5-4 Hirasaku, Yokosuka 238-0032.

原稿受付 2002年10月30日，横須賀市博物館業績 568号。



第1図 横須賀自然・人文博物館付属天神島臨海自然教育園

達している。さらに林縁と海岸の波打ち際との間には草本性海岸植物群落が存在し、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、タイトゴメ、スカシユリ、ハマカンゾウ、ハマオモトなどが見られる。また、海岸には砂浜、転石場、岩礁地帯があり、磯の生物が豊富に観察できる(横須賀市博物館, 1981)。

#### 調査方法

1999年6月から2002年3月の期間、9:00～17:30に天神島で目撃された鳥と鳴き声の種類などを記録した。発声が、明らかに天神島や笠島ではない場所から聞こえたと判断される場合(佐島方面から聞こえてくるコジュケイの声など)は、記録から除外した。また、周辺海域で見られる鳥については、肉眼または双眼鏡(8倍)で確認できる天神島にごく近い海域に限った。なお、当地での夏は4月～9月、冬は10月～3月とした。

#### 結果および考察

##### 1 記録された鳥類について

2年10ヶ月の間(820日間)に記録された鳥類は、

28科75種であった。飼い鳥が野生化したドバト *Columba livia*、セキセイインコ *Melopsittacus undulatus*、および死体漂着により回収されたカムリウミスズメ *Synthliboramphus wumizusume*、ハシボソミズナギドリ *Puffinus tenuirostris* を含めると28科79種になる。さらに、過去に記録され、今回記録されなかった21種(第6表)を合わせると、天神島で記録された鳥は100種となる。日本野鳥の会神奈川支部の調査結果によると、1901年～2000年までの100年間に記録された神奈川県鳥は417種であった。今回天神島では、そのうちの19%が記録され、過去の方も合わせると24%が記録されたことになる。

死体漂着した鳥と、一時期の確認しかしていないセグロカモメ・オオセグロカモメを除く、これらの鳥類の当地における季節変動を、唐沢(1978)にならって【出現率(F)=出現日数/総観察日数×100(%)】で示した(第1表・第2表)。

死体漂着した2種を除く、当地で出現した鳥類77種を以下のように出現率で分類し、記号(出現タイプ)で示した(第3表)。そのうち、通過鳥が全体の48%を占めていた。

- R 主要な留鳥(夏・冬の出現率がいずれも40%以上)
- R' まれな留鳥(夏・冬の出現率がいずれも10%以上40%未満)
- R'S 年中出現するが、特に夏に出現する傾向が強い鳥(夏の出現率40%以上、且つ、冬の出現率40%未満)
- R'W 年中出現するが、特に冬に出現する傾向が強い鳥(冬の出現率40%以上、且つ、夏の出現率40%未満)
- S 主要な夏鳥(夏の出現率40%以上、且つ、冬の出現率10%未満)
- S' まれな夏鳥(夏の出現率10%以上40%未満、且つ、冬の出現率10%未満)
- W 主要な冬鳥(冬の出現率40%以上、且つ、夏の出現率10%未満)
- W' まれな冬鳥(冬の出現率10%以上40%未満、且つ、夏の出現率10%未満)
- T 旅鳥(S', R'Sのうち、特に4月下旬～5月および8月～10月の出現率が他の時期に比べ高く、且つ、神奈川県下で旅鳥として確認されているもの)

P 通過鳥(夏・冬の出現率がいずれも10%未満)

## II 鳥類目録

今回出現した天神島・笠島およびその周辺海域の鳥類の目録は、以下のとおりである。柴田(1974)になく今回初めて記録したものは、※印で表した。出現した各種については、分類順に記述した。観察例が少ないものについては、その件数を記載し、全ての観察例を挙げた。羽色が確認されたもので、換羽前の♀のような羽色(エクリプス羽)をした♂は、♂エクリプスと記載した。

### ミズナギドリ科 Family PROCELLARIIDAE

#### 1. オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas* P

天神島から離れた調査地域外の海域に出現することが多かったが、200羽以上からなる個体群が天神島・笠島沿岸の海上で採餌することもあった。

#### 2. ハシボソミズナギドリ *Puffinus tenuirostris*

死体の漂着のみであった。

19990914(1羽, 死体漂着), 20010519(1羽, 死体漂着), 20010526(3羽, 死体漂着)

### カイツブリ科 Family PODICIPEDIDAE

#### 3. カンムリカイツブリ *Podiceps cristatus* P ※

冬鳥として海上で観察されたが、ごく稀であった。

### ウ科 Family PHALACROCORACIDAE

#### 4. ウミウ *Phalacrocorax capillatus* R'W

夏にも出現するが圧倒的に冬に多く、笠島や周辺の岩礁地帯で、日光浴・身繕い・採餌行動などが見られ、若い個体が多く観察された。これらのウミウは、三浦市城ヶ島にある集団ねぐらから分散してきたものと思われる(横須賀市自然博物館, 1991)。笠島周辺にいるものは、遠距離のために種が確定できないことが多かったが、推定可能であったウ科の種としてウミウに含めた。

#### 5. ヒメウ *Phalacrocorax pelagicus* P

以下の1件のみであった。

20001202(2羽, ウミウの群に混じって岩礁で休息)

### サギ科 Family ARDEIDAE

#### 6. アオサギ *Ardea cinerea* R'W ※

周年観察されたが、特に9月~4月にかけての出現率がたいへん高く、季節的な出現個体数の増減が見られた。調査時間中、笠島とその周辺の岩礁地帯で見られる行動は休息のみで、水辺での採餌行動が観察されたことはなかった。多いときで114羽が観察された。

#### 7. ダイサギ *Ardea alba* R'W ※

周年出現するが、特に9月~3月にかけて観察される傾向にあった。ただし、アオサギに比べると個体数は多くなく、最多で10羽であった。見られたのはほとんどが笠島での休息行動であった。

#### 8. チュウサギ *Egretta intermedia* P

笠島に稀に飛来した。記録のほとんどが、2001年8月~10月に集中していた。

#### 9. コサギ *Egretta garzetta* R

留鳥として周年観察され、8月~12月にかけてよく出現する傾向があった。天神島・笠島と周辺の岩礁地帯に集団で飛来し、休息することもあれば、1個体のみで採餌していることもあった。

#### 10. クロサギ *Egretta sacra* R'

稀な留鳥として観察されたが、他のサギ類同様、秋から冬にかけての出現率が高い傾向にあった。岩礁地帯でよく採餌する光景が見られた。以前は厳冬期に群れをつくり、笠島で17羽もの個体群が観察されたこともあったが(中村, 1974), 今回の記録では、多い時で5羽であった。

#### 11. ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* R'

8月~12月の一時期のみ天満宮社寺林を囀として逗留しており、他の時期の観察は稀であった。

### タカ科 Family ACCIPITRIDAE

#### 12. ハチクマ *Pernis ptilorhynchus* P ※

以下の1件のみであった。渡りの途中の通過個体と思われる。

19991024(1羽, 上空通過)

#### 13. トビ *Milvus migrans* R

調査時間中は常時10羽以上が観察され、出現率は周年100%であった。天満宮社寺林で、巣材運びや交尾行動などの繁殖行動が見られた。

#### 14. オオタカ *Accipiter gentilis* P ※

以下の2件のみであった。

20000129(成鳥1羽, 天満宮社寺林から出現、ハシブトガラスにモビングされながら東へ飛び去る), 20000927(成鳥1羽, ハシブトガラスにモビングされ、天満宮社寺林内に入る)





月 旬	7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1 オオミスズギドリ							4.0	9.1		8.0	15.4							
2 カンムリカイツブリ	4.0																	
3 コゲンカントドリ	16.0	3.7		3.8	7.4	4.8	8.0	13.6										
4 ウミウ												15.4	18.5	89.5	100.0	100.0	4.0	5.9
5 ヒメウ															3.8			
6 アオサギ	24.0	42.3	29.6	30.8	22.2	23.8	56.0	63.6	76.9	100.0	96.2	100.0	94.7	96.2	100.0	94.1	94.1	94.1
7 ダイサギ				15.4	18.5	28.6	44.0	40.9	65.4	68.0	38.5	33.3	33.3	36.0	64.0	42.1	61.5	52.0
8 チュウサギ	4.0				7.4	4.8	20.0	18.2	15.4	12.0	7.7							
9 コサギ	24.0	34.6	44.4	50.0	48.1	85.7	100.0	90.9	88.5	96.0	73.1	85.2	73.7	68.0	72.0	73.7	61.5	80.0
10 クロサギ	4.0	3.8	11.1	11.5	14.8	33.3	20.0	27.3	26.9	28.0	34.6	25.9	21.1	44.0	44.0	21.1	30.8	60.0
11 ヱイスギ				19.2	25.9	42.9	56.0	45.5	69.2	84.0	61.5	88.9	10.5	64.0	44.0	10.5	23.1	24.0
12 ハチクマ												3.7						
13 トビ	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
14 オオタカ									3.8									
15 サシバ												7.4						
16 ハヤブサ																		
17 チヨウゲンホウ																		
18 カルガモ	16.0	15.4						4.5	3.8	4.0	11.5	7.4	15.8	16.0	8.0	3.8	7.7	11.8
19 ウミアイサ																		
20 キジ																		
21 コジュケイ	4.0																	
22 シロチドリ		3.8																
23 コチドリ	8.0	3.8	3.7															
24 メダイチドリ																		
25 オオソリハンシギ																		
26 チュウシヤクシギ																		
27 ホウロクシギ	36.0	80.8	70.4	73.1	59.3	57.1	76.0	90.9	92.3	76.0	92.3	92.6	89.5	88.0	96.0	84.6	76.0	94.1
28 アカアシシギ							20.0			32.0								
29 イソシギ										12.0								
30 キアシシギ	3.8	18.5	3.7	80.8	92.6	100.0	84.0	63.6	69.2	52.0	53.8	29.6	15.8	32.0	28.0	15.8		
31 キョウジョシギ				19.2	59.3	81.0	24.0	22.7	26.9	32.0	26.9	7.4	5.3	12.0				
32 トウネン									26.9	4.0								
33 ハマシギ												7.4						
34 ウミネコ	52.0	88.5	96.3	100.0	88.9	100.0	88.0	95.5	96.2	92.0	92.3	88.9	84.2	96.0	92.0	76.9	92.0	70.6
37 シロカモメ																		
38 コリカモメ																		
39 コアジサシ	3.8																	
40 ウミスズメ								4.5	3.8	4.0	38.5	29.6	52.6	72.0	64.0	76.9	60.0	70.6



第2表 出現率と季節変動.

種名	出現タイプ	出現率				種名	出現タイプ	出現率			
		夏	冬	周年	M			夏	冬	周年	M
オオミズナギドリ	P	0.8	1.4	1.1	3	キジバト	R	59.4	59.1	59.3	12
カムリカイツブリ	P	0.0	1.4	0.7	3	アオバト	P	0.5	0.0	0.2	2
コグンカンドリ	P	0.3	0.0	0.1	1	ドバト	R'W	21.7	68.9	46.3	12
ウミウ	R'W	15.3	72.3	45.2	11	アマツバメ	P	0.3	0.5	0.4	2
ヒメウ	P	0.0	0.2	0.1	2	カワセミ	W'	7.4	24.5	16.3	10
アオサギ	R'W	38.5	91.1	66.0	12	コゲラ	R'	21.9	18.9	20.2	12
ダイサギ	R'W	15.8	40.0	28.4	11	アオゲラ	P	0.5	0.0	0.4	1
チュウサギ	P	4.3	1.4	2.8	5	ツバメ	S	72.4	2.6	36.1	8
コサギ	R	43.1	61.0	52.4	12	コシアカツバメ	P	0.3	0.0	0.1	1
クロサギ	R'	15.1	38.3	27.2	12	イワツバメ	P	5.9	0.2	2.9	6
ゴイサギ	R'	16.3	25.0	20.9	10	ハクセキレイ	R	77.8	88.3	83.3	12
ハチクマ	P	0.0	0.2	0.1	1	セグロセキレイ	P	0.0	0.5	0.2	1
トビ	R	100.0	100.0	100.0	12	ヒヨドリ	W'	4.1	12.1	8.3	5
オオタカ	P	0.3	0.2	0.4	2	ヒヨドリ	R'W	13.5	90.7	53.8	12
サシバ	P	0.3	0.5	0.4	2	モズ	W'	0.3	23.1	12.2	8
ハヤブサ	P	0.0	0.2	0.1	1	ジョウビタキ	W'	0.0	26.9	14.0	7
チョウゲンボウ	P	0.3	0.0	0.1	1	イソヒヨドリ	R'	31.9	33.6	32.8	12
カルガモ	S'	26.0	9.6	17.4	11	アカハラ	P	0.0	1.9	1.0	3
ウミアイサ	P	0.0	1.4	0.7	4	シロハラ	W'	0.3	14.3	7.6	6
キジ	P	0.0	1.9	1.0	4	ツグミ	W	6.4	41.6	24.8	6
コジュケイ	P	2.3	0.0	1.1	3	ウグイス	R	69.4	47.9	58.2	12
シロチドリ	P	0.3	0.0	0.1	1	オオヨシキリ	P	0.3	0.0	0.1	1
コチドリ	P	4.1	0.9	2.4	5	メボソムシクイ	P	0.3	0.0	0.1	1
メダイチドリ	P	0.3	0.0	0.1	1	セッカ	P	0.3	0.0	0.1	1
オオソリハシシギ	P	0.5	1.9	1.2	2	シジュウカラ	R	52.0	56.5	54.4	12
チュウシャクシギ	T(S)	11.5	0.7	5.9	7	メジロ	R	57.1	85.5	72.0	12
ホウロクシギ	P	0.5	0.0	0.2	1	ホオジロ	P	0.0	2.6	1.3	6
アカアシシギ	P	0.3	0.0	0.1	1	アオジ	W'	2.0	38.3	21.0	7
イソシギ	R	49.7	75.5	63.2	11	クロジ	P	0.0	0.5	0.2	1
キアシシギ	T(R'S)	44.6	12.9	28.0	9	カワラヒワ	R'	33.4	25.0	29.0	11
キョウジョシギ	T(S)	26.3	5.8	15.6	10	シメ	W'	1.0	10.3	5.9	5
トウネン	P	1.8	0.2	1.0	2	スズメ	R	92.1	78.7	85.1	12
ハマシギ	P	0.0	0.5	0.2	1	コムクドリ	P	1.8	0.0	0.9	2
ウミネコ	R	73.5	83.4	78.7	12	ムクドリ	R	82.4	85.5	84.0	12
シロカモメ	P	0.0	0.7	0.4	2	オナガ	P	0.5	0.7	0.6	3
ユリカモメ	W	5.6	46.3	26.1	10	ハシボソガラス	W'	8.4	17.1	12.9	12
コアジサシ	S'	11.0	0.2	6.2	6	ハシブトガラス	R	79.6	86.2	83.0	12
ウミスズメ	P	0.0	0.5	0.2	1	セキセイインコ	P	0.3	0.0	0.1	1

- R 主要な留鳥 (夏・冬の出現率がいずれも40%以上)  
R' まれな留鳥 (夏・冬の出現率がいずれも10%以上40%未満)  
R'S 年中出現するが、特に夏に出現する傾向が強い鳥 (夏の出現率は40%以上、且つ、冬の出現率40%未満)  
R'W 年中出現するが、特に冬に出現する傾向が強い鳥 (冬の出現率は40%以上、且つ、夏の出現率40%未満)  
S 主要な夏鳥 (夏の出現率40%以上、且つ、冬の出現率10%未満)  
S' まれな夏鳥 (夏の出現率10%以上40%未満、且つ、冬の出現率10%未満)  
W 主要な冬鳥 (冬の出現率40%以上、且つ、夏の出現率10%未満)  
W' まれな冬鳥 (冬の出現率10%以上40%未満、且つ、夏の出現率10%未満)  
T 旅鳥 (S'、R'Sのうち、特に4月下旬～5月、8月～10月の出現率が他の時期に比べ高く、神奈川県下で旅鳥として確認されているもの)  
P 通過鳥 (夏・冬の出現率がいずれも10%未満)  
M 出現月数



第3表 天神島・笠島とその周辺海域に棲息する鳥類の季節変動。

出現タイプ	種名	種数
R	コサギ, トビ, イソシギ, ウミネコ, キジバト, ハクセキレイ, ウグイス, シジュウカラ, メジロ, スズメ, ムクドリ, ハシブトガラス	12
R'	クロサギ, ゴイサギ, コゲラ, イソヒヨドリ, カワラヒワ,	5
R'S	キアシシギ	1
S	ツバメ	1
S'	カルガモ, コアジサシ	2
T	キアシシギ, チュウシャクシギ, キョウジョシギ	3
W	ユリカモメ, ツグミ	2
W'	カワセミ, タヒバリ, モズ, ジョウビタキ, シロハラ, アオジ, シメ, ハシ ボソガラス	8
R'W	ウミウ, アオサギ, ダイサギ, ドバト, ヒヨドリ	5
P	オオミズナギドリ, カンムリカイツブリ, コグンカンドリ, ヒメウ, チュウサギ, ハチクマ, オオタカ, サシバ, ハヤブサ, チョウゲンボウ, ウミアイサ, キジ, コジュケイ, シロチドリ, コチドリ, メダイチドリ, オオソリハシシギ, ホウロクシギ, アカアシシギ, トウネン, ハマシギ, シロカモメ, ウミスズメ, アオバト, アマツバメ, アオゲラ, コシアカツバメ, イワツバメ, セグロセキレイ, アカハラ, オオヨシキリ, メボソムシクイ, セッカ, ホオジロ, クロジ, コムクドリ, オナガ, セキセイインコ	38
死体漂着	カンムリウミスズメ, ハシボソミズナギドリ	2
		計 79

15. サシバ *Butastur indicus* P

以下の4件が確認された。

- 19991021(4羽, 上空通過, 北方向へ飛去),  
19991024(1羽, 上空通過, 北方向へ飛去),  
20010411(1羽), 20010415(1羽)

で観察された。以下の5件の記録があった。

- 20001201(♀4羽), 20010316(♂1羽♀1羽), 20010415(♂エクリプス1羽), 20020106(♂1羽, ♀3羽), 20020217(♂2羽)

ハヤブサ科 Family FALCONIDAE

16. ハヤブサ *Falco peregrinus* P

以下の1件のみであった。

- 20001011(♀1羽, 上空旋回)

17. チョウゲンボウ *Falco tinnunculus* P

以下の1件のみであった。

- 20011007(♀1羽)

キジ科 Family PHASIANIDAE

20. コジュケイ *Bambusicola thoracica* P

佐島方面より来たと思われる個体のさえずりが、2000年6月下旬~2000年7月上旬, 2001年5月上旬の一時期間, 天満宮社寺林内から聞かれた。

21. キジ *Phasianus versicolor* P

佐島方面より来たと思われる♀1個体が、天満宮社寺林で2000年12月中旬~2001年3月上旬の一時期間, 観察された。

カモ科 Family ANATIDAE

18. カルガモ *Anas poecilorhyncha* S' ※

4月~6月にかけての出現率が高かった。笠島・天神島とその周辺の岩礁地帯, および海上で観察された。

19. ウミアイサ *Mergus serrator* P

冬鳥として, ごく稀に天神島・笠島周辺の海上

チドリ科 Family CHARADRIIDAE

22. シロチドリ *Charadrius alexandrinus* P

以下の1件のみであった。

- 20010711(1羽)

23. コチドリ *Charadrius dubius* P ※

夏に砂浜で観察されたが, 頻度は少なかった。

24. メダイチドリ *Charadrius mongolus* P ※  
 当地での記録は以下の1件のみであった。  
 20000427 (1羽)

シギ科 Family SCOLOPACIDAE

25. オオソリハシシギ *Limosa lapponica* P ※  
 1999年9月24日～1999年10月9日にかけて、  
 砂浜に1個体がほぼ連日出現した。渡りの途中の  
 通過個体と思われる。以下の10件がその記録であ  
 る。  
 19990924(1羽), 19990925(1羽), 19990926  
 (1羽), 19991001(1羽), 19991002(1羽), 19991003  
 (1羽), 19991006(1羽), 19991007(1羽), 19991008  
 (1羽), 19991009(1羽)
26. チュウシャクシギ *Numenius phaeopus* T (S')  
 旅鳥として笠島・天神島周辺の岩礁地帯に渡来し、  
 特に4月下旬～5月中旬の出現率が高かった。
27. ホウロクシギ *Numenius madagascariensis* P  
 以下の1件のみであった。渡りの途中の通過個  
 体と思われる。  
 20010503 (1羽)
28. アカアシシギ *Tringa totanus* P ※  
 以下の1件のみであった。渡りの途中の通過個  
 体と思われる。  
 20000610(1羽, 笠島で休息)
29. イソシギ *Actitis hypoleucos* R  
 留鳥として普通に見られ、岩礁地帯や砂浜で休  
 息・採餌する。ただし5月下旬～6月は全く観察  
 されなかった。
30. キアシシギ *Heteroscelus brevipes* T (R'S)  
 旅鳥として普通に見られ、岩礁地帯や砂浜で休  
 息・採餌する。特に5月および8月～10月中旬に  
 かけての出現率が高かった。
31. キョウジョシギ *Arenaria interpres* T (S')  
 旅鳥として渡来し、岩礁地帯や砂浜で休息・採  
 餌する。出現時期は4月下旬～5月中旬, 8月中  
 旬～下旬に偏っていた。
32. トウネン *Calidris ruficollis* P  
 以下の1件のみの記録であった。渡りの途中の  
 通過個体と思われる。  
 19990925 (5羽)
33. ハマシギ *Calidris alpina* P ※  
 以下の2件のみの記録しかない。渡りの途中の  
 通過個体と思われる。  
 19990921 (2羽), 20001029 (1羽)

カモメ科 Family LARIDAE

34. ウミネコ *Larus crassirostris* R  
 春～夏にかけては、繁殖に参加しない若鳥がほ  
 とんどを占めている。それ以外の期間には成鳥も  
 見られた。以前は餌づけによる誘致が行われてい  
 た時期もあった(柴田,1974)が、現在は全く行っ  
 ていない。多いときで約1700羽の観察例があっ  
 た。
35. セグロカモメ *Larus argentatus* W  
 冬鳥として渡来し、笠島やその周辺の岩礁地帯  
 にいることが多かった。
36. オオセグロカモメ *Larus schistisagus* W  
 冬鳥として渡来し、笠島やその周辺の岩礁地帯  
 にいることが多かった。
37. シロカモメ *Larus hyperboreus* P ※  
 以下の3件の観察例があるに過ぎない。  
 20020126(若鳥1羽, 笠島で休息), 20020206  
 (若鳥1羽, 笠島で休息), 20020207 (若鳥1羽,  
 笠島で休息)
38. ユリカモメ *Larus ridibundus* W  
 冬鳥として普通に見られ、海上の飛翔や岩礁地  
 帯での休息が観察された。
39. コアジサシ *Sterna albifrons* S' ※  
 夏鳥として飛来し、海上での採餌が見られた。  
 4月下旬～5月中旬の出現率が高かった。

ウミスズメ科 Family ALCIDAE

40. ウミスズメ *Synthliboramphus antiquus* P  
 以下の1件のみである。  
 20011111 (5羽, 天神島付近の海上)
41. カンムリウミスズメ *Synthliboramphus  
 wumizusume* ※  
 2体の死体が漂着した。これらは横須賀市自然・  
 人文博物館で保管されている。  
 20000303 (2羽, 死体漂着)

ハト科 Family COLUMBIDAE

42. キジバト *Streptopelia orientalis* R  
 留鳥としてごく普通に観察された。天満宮社寺  
 林やビジターセンター駐車場などで採餌し、冬期  
 に個体数が多くなる傾向にある。
43. アオバト *Treron sieboldii* P  
 以下の2件の記録のみであった。  
 20000810 (1羽), 20000928 (1羽)

アマツバメ科 Family APODIDAE

44. アマツバメ *Apus pacificus* P ※

渡りの途中に上空通過するものがごく稀に見られた。記録は以下の3件のみである。

19991009 (4羽), 20001029 (80羽以上からなる群れ), 20010921 (1羽)

## カワセミ科 Family ALCEDINIDAE

45. カワセミ *Alcedo atthis* W' ※

冬に出現する傾向があった。採餌行動や海水による水浴びが観察された。

## キツツキ科 Family PICIDAE

46. コゲラ *Picoides kizuki* R' ※

稀な留鳥として観察された。シジュウカラやメジロと混群をつくることがあった。

47. アオゲラ *Picus awokera* P ※

観察例は、以下の3件のみである。

20000510 (1羽, 天満宮社寺林), 20000713 (1羽, 天満宮社寺林), 20010502 (1羽, 天満宮社寺林)

## ツバメ科 Family HIRUNDINIDAE

48. ツバメ *Hirundo rustica* S

夏鳥として普通に観察され、天神島ビジターセンターでは繁殖も確認した。

49. コシアカツバメ *Hirundo daurica* P ※

観察例は以下の1件のみであるが、横須賀市自然博物館(1991)によれば、1989年の調査で営巢の記録がある。

20010926 (2羽)

50. イワツバメ *Delichon dasypus* P ※

夏鳥として渡来したが、ツバメに比べて観察頻度は少なかった。

## セキレイ科 Family MOTACILLIDAE

51. ハクセキレイ *Motacilla alba* R

留鳥としてごく普通に観察された。岩礁地帯や砂浜での採餌行動がよく見られた。

52. セグロセキレイ *Motacilla grandis* P

当地の今回の観察例は、以下の2件のみである。

19991012 (1羽, 上空通過), 19991014 (1羽)

53. タヒバリ *Anthus spinoletta* W'

当地では稀な冬鳥として、岩礁地帯で見られる。

54. ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* R'W

10月~4月にかけての出現率が高く、それ以外の時期に観察されるのはごく稀であった。

## モズ科 Family LANIIDAE

55. モズ *Lanius bucephalus* W'

稀な冬鳥として観察された。

## ヒタキ科 Family MUSCICAPIDAE

56. ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus* W'

稀な冬鳥として観察されたが、年によっては園内にテリトリーをつくり、ほぼ毎日観察されたこともあった。

57. イソヒヨドリ *Monticola solitarius* R'

留鳥として周年観察された。佐島マリーナの建物の隙間から出入りするところが観察されたことから、島内での繁殖の可能性が高い。

58. アカハラ *Turdus chrysolaus* P

冬に天満宮社寺林に渡来するが、少ない。

59. シロハラ *Turdus pallidus* W' ※

当地では、稀な冬鳥とされているが、天満宮社寺林で見られた。実際には稀なわけではなく、林内にいるために観察されにくかったものと思われる。

60. ツグミ *Turdus naumanni* W

冬鳥として普通に観察された。砂浜や岩礁地帯で採餌するのがしばしば目撃された。

61. ウグイス *Cettia diphone* R

留鳥として社寺林で周年観察された。

62. オオヨシキリ *Acrocephalus orientalis* P ※

観察例は、以下の1件のみであった。

20010511 (1羽, 囀り)

63. メボソムシクイ *Phylloscopus borealis* P ※

観察例は、以下の1件のみであった。

20010603 (1羽, 囀り・地鳴き)

64. セッカ *Cisticola juncidis* P ※

観察例は、以下の1件のみであった。

20010906 (2羽)

## シジュウカラ科 Family PARIDAE

65. シジュウカラ *Parus major* R

留鳥として普通に観察された。繁殖期には巣立ちびなも見られた。

## ヒヨドリ科 Family PYCNONOTIDAE

## メジロ科 Family ZOSTEROPIDAE

66. メジロ *Zosterops japonicus* R  
留鳥としてごく普通に観察された。

ホオジロ科 Family EMBERIZIDAE

67. ホオジロ *Emberiza cioides* P  
冬にごく稀に観察される程度であった。

68. アオジ *Emberiza spodocephala* W  
冬鳥として普通に見られた。

69. クロジ *Emberiza variabilis* P ※  
次の2件のみであった。  
20011219 (♂1羽), 20011227 (♂1羽)

アトリ科 Family FRINGILLIDAE

70. カワラヒワ *Carduelis sinica* R'  
8月~10月はほとんど見られず, 2月~6月頃に出現率がやや高い傾向にあった。

71. シメ *Coccothraustes coccothraustes* W' ※  
稀な冬鳥として観察された。

ハタオリドリ科 Family PLOCEIDAE

72. スズメ *Passer montanus* R  
留鳥としてごく普通に観察された。

ムクドリ科 Family STURNIDAE

73. コムクドリ *Sturnus philippensis* P ※  
渡りの時期に天満宮社寺林で出現した。

74. ムクドリ *Sturnus cineraceus* R  
数の変動はあるが, 留鳥としてごく普通に観察された。春から秋にかけては, 腐った海藻に集まる生物を採食するために群れが滞在し, 若鳥も多く見られた。

カラス科 Family CORVIDAE

75. オナガ *Cyanopica cyana* P ※  
ごく稀にしか出現しなかった。
76. ハシボソガラス *Corvus corone* W'  
稀な冬鳥として観察された。岩礁などで採餌していることが多かった。
77. ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* R  
留鳥としてごく普通に天満宮社寺林で観察された。海岸で採餌することもあった。

野生化した飼鳥

ハト科 Family COLUMBIDAE

78. ドバト (カワラバト) *Columba livia* R'W

当地では冬に出現する傾向があった。砂浜・岩場で採餌していることが多いが, 大きな集団では現れず, 1~6羽程度である。近くの秋谷では, 年間を通して上空を集団で旋回しているのが見られた。

インコ科 Family PSITTACIDAE

79. セキセイインコ *Melopsittacus undulatus* P ※  
以下の1件のみの記録である。  
19990827 (1羽, ムクドリに混じって採餌)

III 神奈川県内における渡りとの違い

天神島での鳥類の季節変動を, 日本野鳥の会神奈川県支部(2002)による神奈川県内における渡りと比較したところ, 異なる所見が得られた26種を第4表に示す。

神奈川県内では留鳥・夏鳥・冬鳥として一定期間以上滞在するが, 天神島では通過鳥であったものは22種であった。これらは, 天神島が生息環境として適当ではなく普段は生息していないが, たまたま飛来したものか, 渡りの通過途中であったものと思われる。

神奈川県内では留鳥であるが, 天神島では夏鳥・冬鳥として観察されたものは4種であった。天神島で冬鳥として見られたものは, 夏の間, 繁殖場所として適当な地域で過ごしていたのではないかと思われる。また, 夏鳥として見られたカルガモは, 単・雛・若鳥などが確認されていない。しかし, よく出現していたのは観察のしにくい笠島であったことから, 今後発見される可能性も考えられる。

IV 近年の増減が顕著な種

柴田(1974)では報告のなかった25種を第5表に示す。通過鳥(P)以外の7種については, たまたま飛来したのではなく, この地に定着していると考えられる。何らかの環境の変化により繁殖するための条件が改善されたのか, もしくはその種の環境への適応の結果見られるようになったのか, 具体的な原因は不明である。

特にアオサギでは, 近年の増加が著しい。県内では, 1960~1970年代前半, 非繁殖期に少数が出現する程度であった(中村, 1974)。1977~1986年の記録では, 冬鳥として渡来するが少なく, 夏期には稀であった(日本野鳥の会神奈川県支部, 1986)。

第4表 神奈川県内における渡りとの違い. 県内の渡りについては, 日本野鳥の会神奈川県支部(2002)によった.

渡り	通過鳥	天神島	夏鳥または稀な夏鳥	冬鳥または稀な冬鳥
留鳥	オオタカ, チョウゲンボウ, コジュケイ, キジ, シロチドリ, アオゲラ, セグロセキレイ, ホオジロ, オナガ		カルガモ	カワセミ, モズ, ハシボソガラス
神奈川県内	夏鳥: サシバ, コチドリ, アオバト, アマツバメ, コシアカツバメ, オオヨシキリ, セッカ 冬鳥: カムリカイツブリ, ヒメウ, ハヤブサ, ウミアイサ, クロジ, アカハラ		_____	_____

第5表 柴田(1974)で記録がなかった鳥類.

出現タイプ	種名	種数
R	アオサギ	1
R'	コゲラ, カルガモ	2
R'W	ダイサギ	1
W'	カワセミ, シロハラ, シメ	3
P	カムリカイツブリ, ハチクマ, オオタカ, コチドリ, メダイチドリ, オオソリハシシギ, アカアシシギ, ハマシギ, シロカモメ, アマツバメ, アオゲラ, コシアカツバメ, メボソムシクイ, セッカ, クロジ, コムクドリ, オナガ, セキセイインコ	18
死体漂着	カムリウミスズメ	1

計 26

1986~1991年になると, 増加の兆しが見られるようになっていく。相模川, 酒匂川, 三浦半島, 多摩川河口でよく見られたが, 繁殖期には少数が観察された程度で, 確実な繁殖例は知られていなかった(日本野鳥の会神奈川県支部, 1992)。1996~2000年には, 一年を通して各地の水辺で普通に観察されるようになり, 繁殖地が1995年に戸塚区で発見されたのを筆頭に, 次々と確認された(日本野鳥の会神奈川県支部, 2002)。当地においても, 柴田(1974)では記録はなく, 今回調査を始めた1999年の時点では既に多数が飛来していたことから, 27年の間に出現の著しく変化した種といえる。また, これは他県でも同様の傾向がある。千葉県立中央博物館周辺(千葉市中央区)では, 1990年以降から観察されるようになり(桑原ほか, 1994), 京都府南部の南山城でも顕著な増加傾向が見られるという(中川ほか, 1999)。

ダイサギでも, 増加の傾向は見られている。1977~1986年には, 県内には冬鳥として渡来するものが多く, 夏期の観察は稀で, 繁殖例も報告されていなかった(日本野鳥の会神奈川県支部, 1986)が, 1996~2000年の記録では, 水辺で周年普通に見られるようになっていく。当地でも, アオサギ同様, 柴田(1974)では記録がなく, 近年出現す

るようになった種の一つである。これらのサギ類が増加した原因は判っていない。注目したいのは, 当地で採餌行動が見られなかったことである。当地で見られた多数のアオサギを養っているのが何であるか明らかにすることは, アオサギ増加の原因を明らかにすることでもあり, 調査が待たれる。

コゲラも柴田(1974)では記録のなかった種であるが, 今回は年間を通して観察された。以前は三浦半島ではほとんど見られなかったが, 1970年代後半より徐々に分布を広げてきたという。その原因の一つに, 自然林に近くなってきた森林環境の変化が考えられている(横須賀市自然博物館, 1991)。天神島で観察されるようになったのも, このことが関係しているものと思われる。

一方, 近年減少しているのが明らかなのはサシバである。当地では, 以前は営巣も見られていた(柴田, 1974)。しかし, 今回は渡りの途中の通過個体と思われるものが, 4件観察されるにとどまった。これは三浦半島全体の傾向でもある。20年前までは最も普通に見られるタカであったが, 近年では渡来場所も個体数も減少している(横須賀市自然博物館, 1991)。これは, 採餌場所としてサシバが利用していた谷戸田が, 三浦半島ではほぼ消滅したのが主な原因ではないかと思われる。

## V その他特筆すべき種 コグンカンドリ

筆者以外の観察で、調査期間中、コグンカンドリ *Fregata ariel* (グンカンドリ科 Family FREGATIDAE) が記録された(林公義氏による)。今回の当地での観察例はこの20000701(1羽, 上空通過)の1件のみである。神奈川県内では、相模湾沿岸での観察例があり、颱風の影響による渡来が多い(日本野鳥の会神奈川支部, 2002)。

## ゴイサギ

柴田(1974)ではゴイサギのねぐらについての記述がないことから、これは近年の傾向であると思われる。社寺林の樹上で休息しているため発見しづらく、今回記録されたのは罫にいた個体の一部であると考えられる。

## イソシギ

5月下旬~6月で全く観察されなかったのは、時期的に、繁殖地へ移動しているものと推測される。ヒヨドリ同様、天神島・笠島付近は、イソシギの繁殖地としては不適切な環境であるのかもしれない。

## カンムリウミスズメ

死体漂着として記録された天然記念物カンムリウミスズメは、2000年4月9日に藤沢市江ノ島裏磯で1体が回収されており(日本野鳥の会神奈川支部, 2002)、当地ではその約1カ月前に2体が回収されている。江ノ島で回収されたものは、死後15日程度経ったものであったというが、当地で回収されたものは良好な状態にあった。このことから、2000年3月頃に、カンムリウミスズメが相模湾あるいは伊豆諸島付近で死亡したことが示唆される。カンムリウミスズメは、伊豆諸島が最も主要な繁殖地であったと考えられていたが、20世紀半ば以降、個体群が大きく減少したという(Harry R. Carter *et al.*, 2002)

## ヒヨドリ

今回、年間を通しての出現率を算出した結果、天神島では冬に出現する傾向が強かったヒヨドリは、同じ横須賀市内でも平作などでは年中観察され(橋口, 未発表)、狭い地域内で差が見られた。ヒヨドリは、留鳥として留まるものと漂鳥として移動するものの2タイプが存在するといわれている。天神島では、後者が冬期に滞在していったものと思われる。繁殖期に留鳥性のヒヨドリが見られない要因は、夏期の天神島は雛を養うための餌

が十分でないといったような、繁殖場所としての環境が不適切であることが考えうる。

## VI 過去に記録され、今回記録されなかった種について

柴田(1974)や中村(1971)では記録があるが、今回記録ができなかった21種を第6表に示した。これらは、以前はどれくらいの頻度で見られていたのかは不明であるため、通過しただけのものなのか、あるいはよく見られていたのが絶滅したのかは判断できない。また、ピロードキンクロのような海鳥は、今回のようにプロミナを用いない調査方法では発見するのが困難であったことも考えられることから、今回記録されなかったことが減少している状況を示すとは限らない。

第6表 柴田(1974)で記録があり今回記録がなかった鳥類

和名	学名
アビ	<i>Gavia stellata</i>
オオハム	<i>Gavia arctica</i>
アカエリカイツブリ	<i>Podiceps grisegena</i>
ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>
ササゴイ	<i>Ardeola striata</i>
マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>
ズガモ	<i>Aythya marila</i>
シノリガモ	<i>Histrionicus histrionicus</i>
クロガモ	<i>Melanitta nigra</i>
ピロードキンクロ	<i>Melanitta fusca</i>
ムナグロ	<i>Pluvialis dominica</i>
ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>
ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata</i>
トウゾクカモメ	<i>Stereorarius pomarinus</i>
シロハラトウゾクカモメ	<i>Stereorarius longicaudus</i>
ミツユビカモメ	<i>Rissa tridactyla</i>
アジサシ	<i>Sterna hirundo</i>
クロアジサシ	<i>Anous stolidus</i>
ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>
キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>
サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>

## VII 天神島の重要性

天神島の特徴のひとつとして、海が荒れると、磯や砂浜にカジメをはじめ多くの海草・海藻が打ち上げられることが挙げられる。それらを分解する小動物が集まると、その小動物を餌とするイソシギ・キアシシギ・キョウジョシギなどが集まることが確認された。このように、鳥たちが海草・海藻が打ち上がる環境にある天神島に依存していることがわかる。また、来園者がこのような食物連鎖を目の当たりにすることのできる貴重な場所であるともいえる。天神島は、鳥と人の両者にとって重要な場所であると位置づけられる。

## 謝 辞

本稿を作成するにあたって、藤田泰宏、倉持卓司、鈴木 裕、上田恵介の各氏にはたくさんの貴重な助言をいただいた。また、馬場 正、川上和人、増田美奈子、鈴木 裕の各氏は、現地での調査にご協力下さった。以上の方々にあつくお礼を申し上げる。

## 引用文献

- Harry R. Carter, Koji Ono, John N. Fries, Hiroshi Hasegawa, Mutsuyuki Ueta, Hiroyoshi Higuchi, Jack T. Moyer, Leigh K. Ochikubo Chan, Leah N. de Forest, Masami Hasegawa and Gustaaf B. van Vliet 2002. Status and Conservation of the Japanese Murrelet (*Synthliboramphus wumizusume*) in the Izu Islands, Japan. *J. Yamashina Inst. Ornithol.*, **33**: 61-87.
- 唐沢孝一 1978. 市川市大町自然公園における鳥類群集の季節的変動. 千葉生物誌, **27**: 75-84.
- 桑原和之・原田茂・木幡冬樹・鈴木明・青木正志・落合加代子 1994. 千葉県立中央博物館周辺鳥類目録. 千葉県立中央博物館研究報告, 特別号 **1**: 215-234.
- 中川宗孝・上野きよ子・大植登・中島昭・脇坂英弥 1999. 南山城「市町村別鳥類目録」. 日本鳥学会1999年度大会講演要旨集: 152.
- 中村一恵 1971. 県内鳥類誌1. 神奈川県立博物館. 50ページ.
- 中村一恵 1974. 県内鳥類誌2. 神奈川県立博物館. 38ページ.
- 日本野鳥の会 神奈川支部 1986. 神奈川の鳥. 1977

- 86. 218ページ.
- 日本野鳥の会 神奈川支部 1992. 神奈川の鳥. 1986-91. 440ページ.
- 日本野鳥の会 神奈川支部 2002. 20世紀神奈川の鳥. 340ページ.
- 柴田敏隆 1974. 天神島・笠島およびその周辺海域の鳥類. 横須賀市博物館雑報, (20): 52-64.
- 横須賀市博物館 1981. 横須賀市博物館付属天神島臨海自然教育園. 教育資料シリーズ(16). 11ページ.
- 横須賀市自然博物館 1991. 三浦半島の野鳥. 52ページ.

